東久留米稲門会・会報
杜の西北

1998年3月
第4号
発　行　東久留米稲門会
事務局　東京都東久留米市
新川町1－7－8
電　話　0424－76－5432
FAX　0424－76－5430

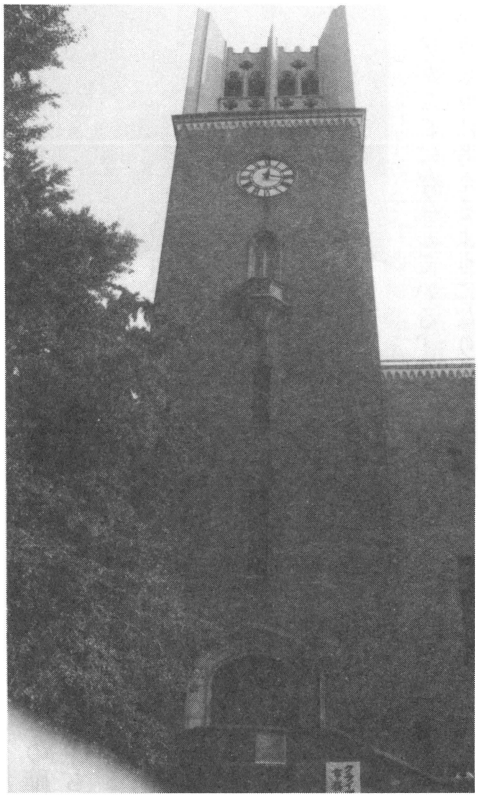
東久留米稲門会員	142名
当市在住の校友数	807名
うち早大校友会入会	266名
入会率	33.0％
都内の平均入会率	26.1％
23区 25.5％、多摩	28.0％
全国の平均入会率	25.0％

（平成10年1月1日現在）

学府の中枢、「生涯学習学部」をめざす

本格化する知的社会の拠点「早稲田大学オープンカレッジ」を聞く

「鳥は飛んで鳥の如し」といいます。ならば「人は学び、考えてこそ人の如し」といわねばならないでしょう。もともと早稲田は、そんな知的欲求にあふれた人々が集まり肩書や卒業証書などといった形式を越えて実質、切磋琢磨した学舎でした。その精神をいまに受け継ぐ「早稲田大学オープンカレッジ」の現況と将来像を、運営母体である「早稲田大学エクステンションセンター」の原輝史所長にうかがいました。聞き手は当稲門会の菱山房子幹事です。



――きょうは生涯学習の府として最も著名な「早稲田大学オープンカレッジ」についてお話をうかがおうとお邪魔しました。まず、その設立の精神についてお聞かせくださいませんか。

原輝史所長　「早稲田大学オープンカレッジ」を運営する「早稲田大学エクステンションセンター」は1981年にスタートしました。その翌年は早稲田大学創立100周年に当たり、創立の原点にもどって早稲田大学はどうあるべきかを考えてみたと思われます。早稲田創立の精神は何かというと、これは間違いなく国民教育です。東大が国家管理をめざす人材育成を目的としたのに対して、早稲田は国民全体の教育水準を高めるため全国各地に人材を養成したいと考えました。実際、各地を回って公開講演会を開いたり早稲田講義録で正規に大学に通えない人たちに勉強の機会を提供しました。私は信州の山のなかに育ちましたが、農家の片隅に講義録がゴロゴロ転がっているのを何度もみています。通算270万もの人が「校外生」として学んだのです。こういう人達のなかには田中穂積先生のように早稲田大学の総長にまでなられた方もおられる。著名な研究者や専門家が数多く輩出しました。そう考えてみますと早稲田大学は創立時から、またその後もずっと生涯学習機関そのものであった、ということができますし、私どものエクステンションセンターが現在、高齢化社会の追い風を受けて生涯学習時代の最先端に立ち順調に発展しているのもきわめて当然のことであると思うのです。

――漠然としていたエクステンションセンターのイメージがだんだんはっきりしてきました。

原所長　いま若年層が減って高齢者がふえています。ここにあらゆる大学の新しい事業の源泉があるのではないでしょうか。早稲田の場合、創立当初から国民全体が知識を身につけることが必要だ、そのために大学を開放することが必要だ、とする明確な理念をもっていました。その理念が100年以上にわたって早稲田大学の基底に生き続けてきました。現在、エクステンションセンターがよって立つ理念も、もちろんそれです。その点が、生涯学習時代がやってきたということで、にわかに大学開放を事業として採用する他の大学とは違う気がします。

私ごとになりますが当エクステンションセンターに就任してしばらく、正直いって二律背反的な悩みを抱えていました。というのは大学では研究機能を高めなければなりません。研究機能のアップが第一であり、大学の開放、教育の普及は二次的な課題だと思っていたのです。ところが仕事をしているうちに気がつきました。

（2頁に続く）

原輝史氏（はら・てるし）1967商学部卒。82教授。86商学博士。96エクステンションC所長兼務。54歳

これから正真正銘の高齢化社会がやってくる。2020年には国民の60%が高齢者で占められるといいます。そうなると生涯学習施設でこそ学問的なものを真剣に続けなければならないのではないか。また大学は高齢社会と真正面から向き合って、それと十分交流しながら自分達の学問を鍛え直さねばならないのではないか。そう気がつきますと、この仕事がチャレンジングなものになってきました。

●浮上した戦略目標

原所長　しかもこの分野は国内の他の大学でも世界のどの国の大学でも、まだ本格的なメソードが開発されていない分野であり、今は悩みながら手づくりでそれを開発している段階ではないかと思います。その点でも意欲を燃やすに足るフロンティアがここに存在している、というように考えるようになりました。

――エクステンションセンターの早稲田大学の中の位置づけというと、現在どのように…。

原所長　これは残念ながら半分日蔭の位置にあるような状況です。大学の首脳部の方々は十分理解しておられるのですが、学内の教職員全体のレベルでは、もうひとつといわざるを得ません。たしかに大学は研究と教育が第一です。社会に還元する事業は追加的な存在としてとらえられやすいものです。大学には、まず学部があり、大学院があり、研究所があります。エクステンションセンターはそのあとの、付属的な機関みたいになっています。したがって学内で完全な市民権を得ている状況ではありません。しかし時代の動向をみ、伝統的な早稲田大学の理念を考えますと、エクステンションセンターは単なる付属的機関としてではなく大学の確固たる中枢的な機能として、もっと前面に押し出すよう考えるべきです。将来は「生涯学習学部」、正式なひとつの学部とすることが期待されます。

――早稲田大学の今後の運営方針の中で生涯学習は〝目玉〟になっているとお聞きしました。

原所長　早稲田大学は2007年に創立125周年を迎えますが、それに向けて「グローカル・ユニバーシティの実現」をめざしています。「グローカル」は「グローバル」と「ローカル」の合成語であることは、皆さんよくご存じのとおりですが、その目標を達成するため三つの具体的な柱が総長や理事会、評議員会の方々によって打ち出されました。それは「アジア・太平洋研究」であり、「国際規模のメディア・ネットワーク構築」であり、もうひとつが、ほかならぬ「生涯学習」です。私たちは大学が生涯学習事業を21世紀の早稲田大学の大きな戦略的ターゲットとして取り上げてくださったことに大変激励されました。真剣に打ち込んで不足のない大きな仕事だと心から思っているところです。

当稲門会幹事、菱山房子さん

●専用棟がぜひ必要

――創立125周年までのエクステンションセンターの具体的な計画をご説明ください。

原所長　できれば、先程ふれました「生涯学習学部」へはっきり組織を変更し、専用棟をつくっていただく。少なくとも全講義の30%から40%は専用棟でできる体制がほしいと思います。専用棟は正門の近くに堂々たるものをバンと建てて、これからまさに生涯学習の時代が到来するのだということを社会にも学内の教職員や学生にも示すことが肝心です。早稲田大学創立の精神的シンボルなのですから。

また全国展開として、どうしても進めねばならないのがマルチメディアを使っての遠隔講義です。本庄校舎や所沢校舎と本部をつないで実験を行っています。もうひとつ、出版事業も拡充しなければなりません。オープンカレッジに通えない全国の学習者を対象に、当センターでの講義を伝えたい。「早稲田講義録」の平成版です。これはすでに「早稲田オープンカレッジ双書」として98年4月からシリーズ出版が立ち上がります。

――現在、こちらのエクステンションセンターの受講生数はどのくらいになりますか。

原所長　登録者は約1万8000人、実際の受講生が1万7000人ぐらい。学部、大学院の学生、院生は4万7000人ほどですから、オープンカレッジの受講生はやがてその半分くらいにはなるはずです。米国のUCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）ではオープンカレッジの受講生が10万人。正規の学生5万人の2倍になっています。

早稲田大学オープンカレッジの受講生の75%は女性で、25%が男性。年齢では20歳代が多く、ダブルスクール族でしょう、語学の履修などに多数きています。また30歳代から60歳代までは満遍なく受講しておられ、80歳代の方も珍しくありません。またどの学校出身の受講生がきておられるか、エクステンションセンターでは学歴を問わず受講できることになっていますから調査しないことになっており、よく分かりません。分かりませんが、もちろん早稲田OB（OG）、現役を中心に他の大学からも多数きていただいていることは確かです。

――オープンカレッジに通って楽しくてしょうがない、という話をよくききます。だれかが「それは試験がないからだ」とおっしゃっていましたが：。

原所長　そうですね。試験がないのが生涯学習の方法ですね。自発的な学習が特徴ですから。早稲田大学校友の方には非常に勉強好きの人が目立ちます。学生時代はあまり「勉強しろ」といわないんですが卒業すると弁護士だ、公認会計士だと、自分で勉強して国家試験をクリアする人が多い。自覚すると、もともと能力のある人たちですからいい仕事をします。その意味で早稲田の校友の方への期待は大きいですね。

講義は少数の受講生による
ゼミナール方式

●魅力の講座群

――カリキュラムの特徴という点ではいかがでしょう。

原所長　米国のオープンカレッジを調べてみても講座を決定するのは教員ではなく職員が中心になっています。ここが非常に面白いところで職員は社会の動きに対する感受性が鋭い。受講生がこない、少ないということになるとその講座は廃止となる仕組みになっています。

当センターでも職員は事務長を含めて9名ですが講義のテーマは職員が提案しています。このほか大学内外からの提案もあります。これらを教員も委員として入っている管理委員会が審査し、通過すると開講できるようになっています。

それに、カリキュラムの基本はアカデミックであること。総合大学がもつ機能を十分活用して自然科学系を含めた幅広いテーマを満遍なく提供する。したがって生け花や料理の講座というのはありません。

――語学ではベルリッツ・ジャパンとの連携や「早稲田の文人系譜」といった講座があり多彩ですね。

原所長　ベルリッツは100年の歴史をもち、実践的な語学力を身につけるのに非常に定評のある教育機関です。これも昨年始めたものですが、キャリアウーマンや現役の学生が受講しています。私どもとしては新しい対象の受講生を開拓したいと考えています。一方、早稲田の先覚者たちを考察する講座は「早稲田の文人系譜」のほか「早稲田〝エコノミスト〟列伝」を取り上げました。いい意味での早稲田のPRにもなるということで：。

また97年の講座では日本チリ修好100周年記念の「チリ総合講座」がありました。当センターとしては初めて受け入れた寄付講座です。記念事業組織委員会は当初「学部で開講したい。若い学生と将来長期に交流したいから」という希望でしたが、「いや、オープンカレッジにくる熟年層をつかんでおけばその配偶者や子供たちにも伝わるものです」と説得して納得してもらいました。

――最後に東久留米市在住の早稲田OBにひとことメッセージを頂戴したいのですが。

原所長　私どものオープンカレッジについては、まだまだ校友の方々に知られてないということがあります。「われわれが卒業したときにはそんなものなかったぞ」といわれたりするわけです。まず当エクステンションセンターの存在を知っていただき、温かい目で母校を育てるという意味で注目し関心を寄せていただきたい。また東久留米ですと受講は直接おいでいただける特権的な場所です。北海道、九州の方々はきたくてもそうはいきません。魅力ある多様な講座を用意しておりますので、ぜひご検討くださるようお願いいたします。そして協力して明るい生涯学習時代を迎えたいと思います。

奥深さが楽しい
大久保泰司氏

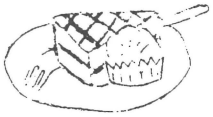
「早稲田大学オープンカレッジ」の素晴らしさは、第一にわれわれ受講生が聴講に真剣なこと。第二に先生や同好の友人とのスキンシップの楽しさにあるといえます。私は4年前から「古寺美術」と「古代史」関連の講座を受けていますが、その魅力は奥深く、最初の、ただ眺めるだけの古寺観光から仏像探求の古寺巡礼へ楽しみが広がってきました。日本の古代国家はいかに形成されたか。最近次々に発表される古代遺跡発掘のニュースにも心躍らせています。（昭30法）

早稲田大学
オープンカレッジ

98年度も多彩な講座を用意しています。

お問合せ・お申込みは・・・
早稲田大学エクステンションセンター
〒169-8050　新宿区西早稲田1-6-1
TEL：03-3208-2248

イギリス人と約束



栄田 卓弘

かつて、一九三〇年ごろ出されたイギリス人に関する本の中で、あるイギリス人の著者が未開の地で、荷物の運搬などに、現地人の労働者を雇った場合、賃金を後払いできるのはイギリス人だけであると誇らしげに述べているのに出合ったことがある。その理由は、他の国の人の場合、あとで賃金を値切ったり、踏み倒すようなこともあるのだが、イギリス人は約束を守り、絶対にそのようなことをしないからであるというのである。

たしかにジェントルマンの国イギリスではスポーツのフェア・プレイの精神が重んじられるし、イギリスは契約社会なので約束を重視するであろうから、いかにもそうであろうとも思えた。しかし一方で、これはイギリス人の手前みそではないかという疑問と、かりにこの本が出された頃はそうだったとしても、現在でも果たしてその通りなのかどうかという疑念を打ち消すことはできないでいた。

さて、先年、外遊の折、イギリス人の約束について、ある経験をもつ機会を得た。ある女性客が私の宿を尋ねてくることになった。私はケーキ位は用意したいと思ったのだが、私の住むゴールダース・グリーンあたりにはケーキ屋を見かけない。そこで近くの喫茶店へ出かけ、お茶を飲みながら中年のウェイトレスに明日ケーキを分けてもらえまいかと交渉してみた。彼女は即座に明日なるべく早くくるようにと笑顔で答えるのだった。

翌日の朝、喫茶店に出かけてみると、レジに見なれない、年配で痩身の婦人が男性の事務員となにか打合わせしている。彼女はこの店の責任者かと思われた。私は早速ケーキを分けてもらいたいと申し出た。彼女は、ここのケーキは客に出すもので売るわけにはいかないと、卒気ない口調で述べた。この予想もしない反応に私は少しばかり狼狽した。私は約束したウェイトレスの名前はむろん知らないし、顔さえも覚えていなかったからである。それでも、忙しそうに立ち働くウェイトレスを目で追いながら、私は昨日約束したのだ、と彼女に告げた。すると彼女は何のためらいもなく、約束したのなら仕方がない、どれが欲しいのかと問うてきた。こうして私は無事ケーキを手に入れることができたのである。

私はここに、約束を重んずるというイギリス人の特性を、しかもそれが現在でも生きつづけていることをかい間見る思いがした。しかも彼女が私の言葉を疑わず、誰と約束したかも問わずに、すぐさま約束を実行したことも印象深いことであった。このように人の言を信ずる態度は他の機会にも経験したことである。イギリスでは人と人との関係が信頼のうえに築かれているように思われたのである。いずれにせよ、われわれ日本人も約束を重んずる態度を実践したいものと思う。とりわけ、政治家にそれを求めるや切である。

（昭26文、名誉教授）

◆海外通信◆

マンハッタンにあふれる中国語

テレビ朝日ニューヨーク支局
特派員　川村　晃司

アジアの活気も一気に崩れ、いまやアメリカに大声出して、対等に向かっていこうとしているのは中国ぐらい。昨年は江沢民主席の訪米で、アジアの代表は自分たち中国人だと盛んに主張し始めた。

クリスマスから年末年始にかけてブランド商品が並ぶニューヨーク最大の五番街は歩道一杯に人が溢れ返り、一メートル先をゆくにもひしめき、押し合いの大変な混雑ぶりだった。こうした買い物客の半数以上が観光客を含めたアジア人の群れだが、これまでと様相が違った。例年なら日本語とハングル語の洪水でうんざりしていたニューヨーカーたちが、今年は同じアジアでも中国語に取り囲まれたのだ。世界トップレベルの外貨準備高をもつ台湾、香港、そして中国本土からの買い物客が主流である。先日、私も久しぶりに娘とマンハッタンを歩いていて世界で最も多くの人々が話す言葉が中国語だということを肌で実感した。

それにしてもアメリカの中国理解は、いまだにステレオタイプ。最近みた三本の中国を題材にした映画「セブンイヤーズ・イン・チベット」「レッド・コーナー」など、いずれも中国や東洋文化に対する見方、伝統、習慣のとらえ方が現実とは違った一面的な部分が多く、日本人からみてもおかしいと思うのだが、映画館は元気一杯、大盛況。

どうやらニューヨークは人種、宗教、民族のるつぼであるばかりか文化の面でもゴチャゴチャ、なんでもありありの世界だ。結局、移民国家であるこの国には近代という社会はあっても独自の文化が存在しないのかも知れない。そんな時、ふっと東久留米の黒目川と緑豊かな神社の木々がなつかしく想い出されるのだ…。

（昭48文）

愛嬢、史世さん（早大3年）と。マンハッタンで。

わが早稲田時代

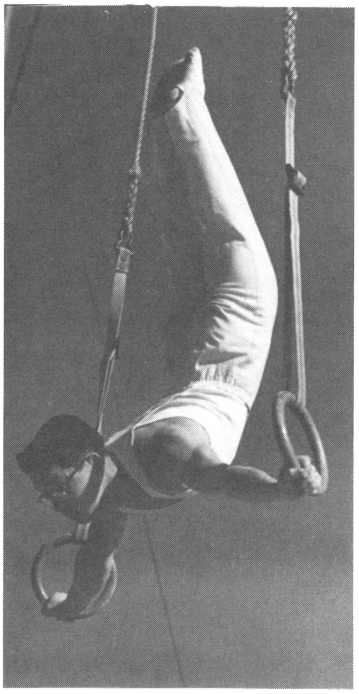
幻と消えたヘルシンキ五輪
体操父娘鷹が自慢

馬場清彦

昭和23年秋の全日本高校体操競技選手権大会で団体および個人総合に優勝したとき、日本体操協会長だった近藤天先輩から、「きみはワセダの顔をしている。ぜひ早稲田大学にきたまえ。待ってるよ」といわれ、その気になったものです。

しかし入試の試験場に入って驚きました。昭和24年初春はまだ戦後です。予科練や旧制高校の流れを引きずった大人たちがずらり、ヒゲ面を並べているではないですか。到底、入試はダメだと思いました。でも、「馬場選手、早大を受験」と北九州市の新聞に載って、あとには引けません。なんとか法学部に合格できたときは胸をなで下ろしたものです。

すぐ体育会体操部に入り、学業そっちのけの練習に明け暮れることになりましたが、やはり戦後のことです。思い浮かぶエピソードとなると食べることに繋がります。ある先輩が新宿の、とある横町の一軒でシチューと称するモノを御馳走してくれました。これがバカウマで、お代わりまでしてモリモリ力がついたような気になったのです。ところがその夜激しい腹痛に襲われ七転八倒、エライ目に遭いました。このシチュー、実は進駐軍の残飯をかき集めて煮込んだもので脂肪分がやたら多く、私の胃は受付けなかったのです。それでも数日後、メゲない私はまた同じメニューに挑戦するため出かけ、口に運びながらよくよく見ると肉の切れ端あり、パンの耳あり、バターの脂がギトギト浮いて、そのうえ薄いカレー味もついている。しかしもう胃が馴れたのか平気で、以後その店の半ば常連になりました。



つり輪で十字倒立をビシッと決めた馬場選手

その後、相模原の米軍キャンプの司令官に招かれ体操の模範演技を披露することになりました。ここで当時見たこともない厚さ五チセンもあるビフテキを御馳走になり「あ～あ、日本は戦争に負けるわけだ。相手がこんなモノ食べてるんじゃ」と変に納得したのを覚えています。

さて肝心の体操のほうはというと昭和26年3年生のとき、早大体操部は全日本学生体操競技選手権大会で団体総合優勝を果たし、翌年も私は同じ大会で個人総合を制して優勝、名実ともに学生チャンピオンになることができました。そして戦後初めて日本が参加するヘルシンキオリンピックに出場が決まりました。渡欧を前に練習の最後の仕上げに夢中になっているとき、突如知らせが入り出場は5名だけ、私は積み残されることになりました。当時の日本は手持ち外貨に乏しく派遣選手を減員しなければならなかったのです。私は6位で4年生、先があるからと外される憂き目に遭い、ついに私のオリンピック出場は幻となってしまいました。

現在の馬場氏

それにしても体操部時代、よく合宿で地方に出かけました。地元のOBや稲門会支部の方々に本当によく面倒をみていただきました。そんなとき「ヨシッ、俺もやがて可愛い後輩の面倒を必ずみてやるぞ！」と心に誓ったものです。また関西学院大との伝統ある早関戦の折、大阪在住の先輩夫妻のお世話になりましたが、これまた「ヨシッ、俺も将来こんなホットな家庭をつくるぞ！」と決心しました。お陰で学生時代の恋人と結婚、一人娘が早稲田の体操部に入ったという親子物語を私はいま最上の自慢にしているところです。

とにかく早稲田に入ったときから素晴らしい先輩、仲間、後輩に恵まれ、貧しくとも明るく、精一杯元気で希望に満ちたネアカの学生時代を過ごすことができました。感謝のひとことです。

（早大体育局講師＝昭28法）

近況・僅況

◆「流通能率研究所」を主宰しています。今年、南関東の1月としては300年ぶりという大雪に見舞われましたがスーパー、コンビニの欠品状況を実地に取材して論文にまとめ専門誌に発表しました―三原田栄（昭30政経）◆昨年7月、中国の「三峡下りと三国志の旅」に行きました。三峡は長江中流の瞿塘（くとう）峡、巫（ふ）峡、西陵峡からなる天下の絶景、11年後には西陵峡に完成する三峡ダムも有名です。また三峡を含む長江は中国史で一番人気の高い『三国志』の激戦地帯でもあります。その一つ、魏、呉、蜀3国が生存をかけて戦った「赤壁の戦い」の古戦場に立つと遥か1800年前の英雄豪傑たちの姿が彷彿されます。なお9月の「語らい会」で詳しくご報告致します―竹村鋳郎（昭23商）◆東久留米消防署で4年前から応急救護法の研究や市民救命士の育成に努めてきました。市民救命士のほうは昨年秋に当初の目標である300人達成を実現することができました―千葉弘（昭和38理工）◆芝原栄様―早大高等学院の息子が落としたサッカー運動場の許可証を拾って、ご親切にも送って下さり、ありがとうございました。拾ってくださった方が偶然にも稲門会の方ということに大変驚き、感激しています。この欄をお借りし改めてお礼を申し上げます―

山岡恭子（昭53教）

女性サークルのページ

甘い香りに酔いました
『生活の木ハーブ園』

私たちの生活の中でハーブの利用が多くなってきました。女性サークル部会では、穏やかな晩秋の一日、有志7人で飯能の小高い丘の上にある“生活の木ハーブ園”を訪ねました。

ハーブの鉢に囲まれた小さな門を入ると甘い香りが秋風の中を漂ってきました。白い建物の中はポプリでアレンジしたリースが飾られ、奥にはパン工房などもあって焼き立てのハーブパンが販売されていました。また屋外のハーブガーデンでは色とりどりの花を集めたコーナーや葉を楽しめる畑などを見学。ラベルをみないと名前の分からないものばかりでしたが高い空のもと、まさにアロマテラピーとタラソテラピーが交錯してハーブに酔う感じでした。昼食はハーブ入り洋食をいただきました。

これら多種多様なハーブにもそれぞれ利用方法、効用、保存方法等、調べるほどに奥深いものがあることでしょう。見学して少しばかりハーブが身近に感じられるようになりました。

（榎本幸子）

※ハーブガーデン〝生活の木〟への道順。西武池袋線・飯能駅下車、徒歩15分。飯能市美杉台1の1「美杉台フォーラム」内。☎0429・72・1787

秋風の中の甘い香を満喫

クラシックにも酔いました
デュオ・リサイタル

昨年10月30日、女性サークル部会の提唱で千代田区・紀尾井ホールで開かれた「ダニエル・ゲーデと横山幸雄デュオ・リサイタル」を鑑賞した。参加者は男女20名。

昨年の春、若くしてウィーン・フィルのコンサートマスターに就任したD・ゲーデと日本ピアノ界のホープ横山幸雄の感性溢れるデュオ！シューベルト、ブラームス、フォーレなど二人の息の合った透明な音色と美しい旋律が豊かに奏でられ、音に酔いしれて至福の2時間を過ごした。その後参加者有志が四ツ谷駅ビルの炊（いり）屋で歓談のひとときをもち会員の一層の親睦を図った。（大川洋子）

クラシックに酔いしれた至福の顔…

幻想的なガス灯と山崎パン工場見学会

昨年の5月17日、女性サークル部会の主催で新青梅街道沿いのがす資料館と山崎パン武蔵野工場の見学会、近郊散策の会を行いました。参加者は22名。

がす資料館には明治時代のレンガ造り2棟が移設、復元されています。文明開化のころ、人々を夜の闇から解放したガス灯があり、とても幻想的でした。また、この時代の錦絵にはガス灯がさまざまに利用されている様子が描かれていました。

山崎パン工場見学は栄田征子副会長の尽力で実現したもので、最新鋭の設備と徹底した衛生管理を誇る工場をみることができました。全員、殺菌された専用の帽子、上着、靴を着用して工場内に入りましたが、食パン、菓子パン、ロールパンなどが数多くの工程を経て効率よく出来上がってくるのには驚きました。また見学後、工場幹部の方を中心に質疑応答を行い、活発な意見の交換をして有意義な見学会を終えました。

（石寺美弥子）

●新部会長に石寺さん

女性サークルでは上記の三つの行事のほか、早大ホームカミングデー・校友大会の奨学金福引券を山岡恭子さん（昭53教）のお骨折りで地区別懇親会の席上、61枚の購入がありました。

なお本年度から部会長を私から石寺美弥子さん（昭53文）にバトンタッチしました。引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

（栄田征子）

ご宴会・クラス会・ご法事
ご予約 承ります
滝山中央名店街
寿司 割烹 柳本店
滝山店：東久留米市滝山4-1-40
0424-71-7061
新所沢店：所沢市松葉町23-15
0429-93-4144
新所沢駅3分。送迎バス有

知る・消す・逃るのお手伝い
各種消防設備設計・施工・保守・消防防災用品全般
建設業許可番号 東京都知事許可(般ー8)第84897号
ABC消火器
■ミヤタABC消火器
保守検査(契約)はぜひ
消防設備士・点検資格者のいる当社へどうぞ……
株式会社 カナメ商事
東京都東久留米市幸町3丁目10番26号
TEL 0424(71)2479(代)
FAX 0424(71)3246

おいしいうどん うまいそば
門前交番前
笹屋
東久留米市東本町11-8
TEL 0424-75-0147

まかせて安心 受けて確実
OA・事務機器・事務用品
株式会社 證文堂
●営業部(金山町店)
〒203-0003 東京都東久留米市金山町2-3-4
☎(0424)71-3939 FAX(0424)71-7373
●本町店
〒203-0053 東京都東久留米市本町2-5-1
☎(0424)74-3939 FAX(0424)75-3636
●滝山団地店
〒203-0033 東京都東久留米市滝山4-1-34
☎(0424)71-6564 FAX(0424)76-6564
消費者が選ぶ最優秀店賞受賞

東稲俳壇――《秀句探索》

選・橘　雅契（正治）

俳句部会長・昭29文

梅の香の覚えをたどり柳窪
植松苳青（健一）名誉教授
「覚えをたどり」で柳窪の梅たちを愛した心情がにじみでている。自然への思いやりも。

おぼろ夜や男ことばのおとめたち
杉本達夫・文学部教授
朧にかすんだ春の月。男と思ったら乙女たちが男言葉で。季語がきいている。現代社会風刺句。

御簾越しに囃流れて鱧（はも）おとし
安宅武一・昭28商
京都の旅の体験句。夏祭の夜の季感が溢れている。京都では祇園祭が鱧祭とさえ呼ばれ「鱧おとし」など作られる。

幼名で呼び合う友や盆踊り
太田千雪（蔵之助）・昭23商
盆踊りの思い出は誰しも持っている。「幼名で」が少年時代のすべてを。盆踊りでの旧交をたんたんと表している。

秋晴れや乳母車の子夢まどか
高橋貞一・昭26法
さわやかな秋晴れを乳母車に眠る幼児の中に見つけた作者。俳句は一瞬のひらめきが大切。

立冬や薄日のなかの羅漢仏
坂本信太郎・名誉教授
冬に入る日の情景をぴたりと詠んでいる。見た景を力まずに素直に。薄日と羅漢仏が句を支えている。

★句会は15人前後で隔月開催。初心者大いに歓迎します。

四万温泉で研修　囲碁部会

毎月1回例会を開き部会員の親睦と棋力の向上を図っている。一昨年の春発足した当初は参加者が4、5名程度で、いささか寂しい思いをしていたが次第に参加者が増え、最近は毎回10名ほどになったのでトーナメント戦なども行えるようになった。

昨夏は群馬県四万温泉の囲碁民宿唐沢旅館で一泊の研修旅行を実施した。当日は午後1時に集合、参加者10名による総当たり戦を行い、激戦は深更にまで及んだ。翌朝、朝風呂もそこそこに対局が始まり、一同心ゆくまで碁を堪能、大満足で帰京した。また1月11日は例会後、旧市役所前の「うどん亭」で新年会を催し、うどんすきに舌鼓みを打ちつつ囲碁談義に花を咲かせた。

碁は「頭のスポーツ」。近年国際的にも普及し、オリンピック種目にも加えようという運動も起こりつつあるので、より多くの方とともに楽しみたいと思っている。（安藤信雄）

21名で新発足　書道部会

昨年11月書道部会がスタートしました。部員21名のほとんどの方が何十年ぶりかで筆をもつといった調子で、お互いに顔を見合わせ、いささか前途が危ぶまれる雰囲気でした。が、スタートしてみると各自が筆、墨、硯、紙を持参して楽しみながら机に向かって熱心に書の基本である永字八法の「永」の8画の運筆法を練習、なんともほほえましい光景です。

月1回の集いを楽しみに次回までの宿題を持参し、お互いに個性のある書を鑑賞し合うなど、和気靄々の部会です。基本を大切にしながらも個性豊かなムードのある書をめざして頑張っています。むつかしい理屈は抜きにして、書をもって友好関係を深め、書に親しみをもち続けてゆくためにも今後の部会活動の目標を、稲門会らしくちょっぴり格調高く、次の四つに決めました。

楷書は白楽天の詩「送春」五言絶句、行書は李白の詩「江上吟」七言絶句、そして仮名の基本と自由課題2字の4本柱を書への〝いざない〟として親しんで行く所存です。（武藤　豊）

昨年11月に発足した書道部

響宴！98新年会

1月24日午後6時から本町2丁目の割烹「浜波」で開催。参加者は昨年より6名多い60名。

まず安宅武一会長から「文化活動の推進、組織の強化を図る、大学との連携を一層密にする」などの挨拶。次いで栄田卓弘名誉教授の音頭でいっせいに乾杯。続いて歓談に入ったがみな早稲田時代に逆戻り、大いに盛り上がった。さらにジャンケンゲーム、ビンゴゲームに興じたあと、応援部OB、大矢真弘氏のリードで校歌と「紺碧の空」を全員で大合唱。和気靄々のうちに楽しい宴を閉じた。（棚野愛子）

■会員一同、謹んで心から哀悼の意を表します。

木村哲也氏（昭21政経）
平成9年7月5日逝去

植松健一氏（早大名誉教授）
平成9年9月13日逝去

廣田誠之氏（昭34法）
平成9年11月4日逝去

川魚・活魚・ふぐ料理
クラス会・ご法要
各種ご宴会
5名様より100名様まで
承ります
活魚 割烹 浜波
東京都東久留米市本町2-2-17
TEL 0424-73-1001
74-4551

小回りの利く
スピーディーな“街の印刷店”
清文堂印刷所
東久留米市滝山5-1-4
TEL 74-1787

武蔵野のうどんを求めたら
安くてうまい「なべきち」に
来ました
ここが本物うどんの
うどん亭
なべきち
東久留米市幸町3-6-4
東久留米旧市役所前
JA東京みらいとなり
TEL 0424-76-0141

東久留米最強の進学塾
『めんどうみ』の良い指導で
今年も 飛躍的な合格実績を
約束します
東久留米駅　北口下車すぐ
早稲田アカデミー
東久留米校
☎0424(74)5301

平成10年度 事業計画(案)

一、文化活動の推進
☆市民参加のグリークラブ演奏会を成功させよう。
☆各部会活動をますます活発に充実させよう。
☆「文化講演録シリーズ」を発行する。

二、組織の強化を図る
☆第4回定時総会を機に会員の増加を図る。
☆新卒者、女性会員への入会呼びかけを積極的に行う。
☆会報「杜の西北」の充実と増ページ。

三、大学との関係を一層密に
☆オール早稲田文化週間への参加。
☆校友大会への協力

活気ますます

平成9年度 事業報告

【行事】
▽1・18新年宴会。出席54名▽4・13第3回定時総会。来賓―大学、校友会関係者、近隣稲門会等計7名。会員出席74名。講演会講師、日比野弘教授(元早大ラグビー部監督)。一般聴衆多数▽2・28幹事会。4、6、8、10、12月の偶数月に年6回開催▽8・30東地区懇親会。参加会員40名。割烹「磯久」で▽9・20西地区懇親会。参加会員24名。滝山「柳寿司」で。

【広報】
▽1・1ハガキ通信7号「東稲通信」年賀。4、7、10月の年4回発行▽3・2会報「杜の西北」3号発行▽6・30会員名簿発送。収録会員数141名。

【サークル活動】
★ゴルフ部会(部会員38名)▽4・17第5回コンペ。参加15名。寄居CCで▽10・8第6回コンペ。参加13名。サンフィールドGCで★囲碁部会(部会員16名)▽毎月例会開催。8・23四万温泉で合宿研修。参加10名★俳句部会(部会員17名)▽隔月句会開催★山歩き部会(部会員45名)▽3・30観桜会。参加13名。小金井公園▽6・14子の権現山歩き会。参加18名。全会員対象。★女性サークル(部会員15名)▽5・17山崎パン武蔵野工場・がす資料館見学会。参加22名。全会員対象▽10・30デュオ・リサイタル。参加20名。紀尾井ホール。全会員対象▽11・8飯能ハーブ園見学会。参加7名。▽女性会員の隔月集会開催。★書道部会(部会員21名)▽11・2書道部会設立の初会合。参加17名。武藤豊部会長の指導で原則毎月第2日曜の午後勉強会。

【近隣稲門会との交流】
▽5・11保谷稲門会総会出席▽6・11三多摩稲門連合会会長会出席▽6・15田無稲門会総会出席▽7・27三多摩稲門連合会大会出席▽9・20狭山稲門会音楽会招待出席▽9・25武蔵野稲門会総会出席▽10・5小平稲門会総会出席▽10・25小金井稲門会総会出席▽11・15東村山稲門会総会出席▽11・16清瀬稲門会設立総会出席。

【大学・校友会関係の活動】
▽10・6大学へ三多摩稲門会を通して3万円寄付▽10・19ホームカミングデー校友大会に参加。福引抽選券61枚販売。

平成9年度東久留米稲門会収支決算書
(自平成9年1月1日至平成9年12月31日)

支出の部 科目	金額	収入の部 科目	金額
総会費	459,683	総会収入	
通信費	208,472	(71名×5000)	355,000
印刷費	80,370	年会費	
消耗品費	23,982	(145名×3000)	435,000
会議費	23,060	祝金	30,000
交際費	89,000	寄付金	20,000
『杜の西北』		校友会補助金	180,000
印刷費	59,740	広告収入	50,000
部会補助金	35,000	利息	123
イベント		雑収入	19,720
事業費	26,349	前期繰越金	221,341
弔慰金	36,170		
寄付金	30,000		
雑費	4,270		
繰越金	235,088		
合計	1,311,184	合計	1,311,184

瀬古さんがきます
4月19日 文化講演会

瀬古利彦さん(昭55教)が東久留米で講演します。瀬古さんは福岡国際マラソン3連覇、ボストン、シカゴ、ロンドンなどの国際マラソンも制覇した嚇々たる戦歴の持主で現在エスビー食品陸上部監督。講演会は東久留米市役所の市民プラザホールで。午後1時半開場、2時開演。

講演終了後、当稲門会の第4回定時総会を開会いたします。

事務局からのお知らせ

★当稲門会が主催する文化講演をプリントし、シリーズで発行することになりました。

第1号は3月に発売する日比野弘・早稲田大学教授の「ラグビーに学ぶ―チームワークとリーダーシップ―」。実費200円でお分けします。ご希望の方は事務局までご連絡ください。★「三多摩稲門連合会」の名称で1稲門会当たり3万円を毎年集め、合計で60万円を母校に対する支援活動として寄付することになりました。寄付期間は、大学の創立125周年記念事業募金の期間として2007年まで続けられる予定です。

ポケットパーク

▼「会ひたき人に会はせてくれるこの世かな　人に憎からぬこの世なりけり」。最近の拙歌ですが、大学入学以来、そして稲門会に入会してからは、ますますその感を強くしています(M・E)▼東久留米稲門会での闊達な交わりを通して、生来の桂馬気質がいよいよ頭をもたげてきたようです(大川)▼すさまじいざわめきと共に何千羽とも知れぬ椋鳥の大群がやってきますが、いつも人間の一番近くにいた雀や土鳩、市の鳥の尾長をほとんど見かけなくなりました。当地も自然が失われたということでしょうか。今年、うぐいすは来るでしょうか(F・H)▼ドイツ語圏旅行のため今年は初級ドイツ語旅行会話をマスターしたいです(キョン)▼福沢諭吉は銭湯のオーナーでした。明治8、9年ごろのことで、その銭湯は慶応義塾に近い三田通りにあり、塾生や三田の住民が利用したようです。「脱亜入欧」を主唱した福沢は西洋に倣って湯の温度をかなり低くし熱い湯の好きな江戸っ子にはあまり人気がなかったとか。面白いのは卒業する塾生をつかまえては、だれかれとなく「お前、郷里に帰ったら湯屋をやれ」と口説いたそうで、その中には、のちに〝電力の鬼〟と呼ばれた、あの松永安左衛門もいました。〝諭吉は湯吉だった〟という、この史実は「福翁自伝」などにも触れられておらず、向こう(慶応)もほとんど知りません。いわんや、こちら(早稲田)においてをや、です(国)

「杜の西北」第4号
1998年3月　発行
発行人　安宅　武一
編集人　国米家己三
編集委員　石寺美弥子　栄田征子
大川洋子　菱山房子
山岡恭子　山下香緒里
事務局長　高橋勤
印刷所　清文堂　74・1787